

## 会議録

- 1 附属機関の名称  
犬山市総合計画審議会
- 2 開催日時  
令和3年11月18日（木） 午後6時55分から午後8時45分まで
- 3 開催場所  
犬山市役所2階 205会議室
- 4 出席した者の氏名
  - (1) 委員 岡村 千里、松浦 英幸、丹羽 良仁、田村 奈々、森好 佐和子、  
鈴木 誠、水内 智英、鈴木 温、間中 麻耶、目黒 優衣
  - (2) 執行機関 鈴木経営部長、井出企画広報課長、高橋企画広報課長補佐、  
小枝企画広報課統括主査、倉知企画広報課主査
- 5 議題  
・新しい基本目標について
- 6 傍聴人の数  
0人
- 7 内容
  - (1) 開会

事務局（井出）	皆さん、こんばんは。 定刻前ですが、今日ご出席の方がお揃いですので、ただ今より「令和3年度第4回犬山市総合計画審議会」を始めさせていただきたいと思います。 本日は、お忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。 進行は、企画広報課の井出がさせていただきます。 初めに、鈴木会長よりご挨拶させていただきたいと思います。会長、よろしくお願い致します。
---------	---

### (2) あいさつ

鈴木会長	皆さん、こんばんは。 前回、2グループに分けてそれぞれご発言いただきましてどうもありがとうございました。大変熱心な、しかも、論点を鋭く突いたご意見をたくさんいただきました。本当にありがとうございました。 今日は、そのグループ討論の2回目になります。前回と今回の2回、グループでの討論を重ねまして、皆さんの様々な分野にわたる論点を整理しながら、あわせて、いただいたご意見を判断の一つの指標にしながら、また、地域の皆さんのいろんなワークショップの成果なども分析して、基本構想、基本目標をつくる準備に入ってまいりたいと思います。
------	---

	<p>今日はその大事な会議になります。非常に限られた時間でありますけれど、前回、同様活発な意見交換をしていただきますように、どうぞよろしく願いいたします。</p>
事務局（井出）	<p>ありがとうございました。</p> <p>本日の会議につきましては、お手元の次第に従って進めさせていただき、概ね2時間程度、午後9時には終了させていただきたいと思っています。</p> <p>本日は、委員総数15名のうち、10名の出席となっています。ビアンキ委員、奥村委員、増田委員、中山委員、本巢委員につきましては、事前に欠席の連絡を頂いております。委員の過半数が出席されていますので、本会は成立していることをご報告させていただきます。</p> <p>また、本審議会は公開とさせていただきます。あわせて、後日会議録も公開させていただくこととなりますので、ご承知おきください。</p> <p>また、この会議録につきましては、事務局で作成しましたものを、会長の指名する2名以上の委員の署名をいただくことになっております。事前に会長と打合せをしまして、本日の会議録への署名者は、前回に引き続き名簿順で、田村委員と水内委員にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、事前に送付させていただきました資料の確認をさせていただきます。</p> <p>事前送付のもので、別紙で「はじめにお読みください」、次第、委員名簿、資料1「第3回犬山市総合計画審議会 意見整理」、資料2「第3回犬山市総合計画審議会の意見整理補足資料」、資料3「地区別タウンミーティング意見まとめ」、資料4「アンケート調査結果まとめ」、資料5「中学校まちづくりアンケート報告書」、資料6「団体アンケート報告書」、資料7「企業ヒアリングまとめ」。</p> <p>加えまして、本日机の上に「当日配付資料一式」、「グループワークグループ分け」、最後に、犬山市総合計画改訂版、第2期いいね！いぬやま総合戦略を置かせていただいております。</p>

### （3）議事

事務局（井出）	<p>それでは、ここから議事等に入ります。</p> <p>議事以降の進行につきましては、鈴木会長、よろしく申し上げます。</p>
鈴木会長	<p>それでは、始めてまいりたいと思います。</p> <p>まず、新しい基本目標について、事務局から委員の皆様方に説明をお願いしたいと思います。</p>
事務局（高橋）	<p>企画広報課の高橋です。私からご説明させていただきます。</p> <p>前回の審議会では、2つのグループに分かれていただいて、おおよそ10年後のまちづくりについて、ざっくばらんに発言、意見交換を行っていただきました。本日は、もう少し焦点を絞って、基本目標についてお考えいただきたいと思っています。</p> <p>基本目標とは、新しい総合計画で目指す姿の柱となるものだと考えております。現在の総合計画の24～25ページの下段に10のまちづくり宣言があります。これが基本目標のイメージとなっております。</p> <p>次回の審議会では、事務局からこの基本目標について素案を出させていただく予定をしております。そのために、本日は皆様にご議論いただきたいと思っております。</p> <p>資料1をご覧くださいと思います。</p> <p>こちらは、前回の審議会で皆様に出していただいた主な意見をまとめたもので</p>

す。大きく4つにカテゴライズさせていただいておりますが、真ん中にある緑色の「実現したいこと」が基本目標に該当する発言だったと事務局では捉えております。まずはこの部分を固めていきたいと考えております。緑の枠以外の部分につきましても、基本目標を作成する際の考え方として参考にしたり、基本目標以外の部分を検討するにあたって参考とさせていただく予定です。

資料2をご覧いただきたいと思います。こちらは市民意識調査やアンケート、地区別タウンミーティング等、事務局で集めた市民の皆さんの意見、また、前々回の審議会の意見等を参考に、前回の審議会では意見としてはあまり出てこなかったものですが、基本目標を作成するにあたってはこういった視点も必要ではないかなという項目を事務局で取りまとめたものになります。

資料3から7までは、地区別タウンミーティングや各種アンケート、企業へのインタビュー結果をまとめたものです。前回、中間報告として提出させていただきましたが、市民意識調査2種については、その後、性別ですとか地区別等でクロス集計をかけましたが、資料が膨大になってしまいましたので、定住という視点に絞って資料をまとめさせていただきました。アンケートの集計について、「こんなデータが欲しい」というものがありましたら、事務局までお知らせいただければ、可能な範囲でご用意させていただきたいと思います。

資料の詳細についての説明は最小限にさせていただいておりますけれども、資料3についてだけ少しご説明させていただきたいと思います。市内を5つの地区に分けて地区別タウンミーティングを開催いたしました。土日祝日の開催でしたが、109名に参加していただくことができました。

地区別タウンミーティングでは、参加者を4～7名のグループに分けさせていただいて、初めに、参加者さんに「10年後の〇〇地区はこうなったらいいね」を青色の付箋に、「10年後の犬山市はこうなったらいいね」を黄色の付箋に書き出いただき、地区ごとの地図に「こうなったらいいよね」と読み上げていただきながら貼っていただき、情報共有や意見交換をしていただきました。それが資料3の表紙、右下、写真にある付箋を貼った地図になります。もう1つ、ピンクの付箋がありますが、これは10年後の〇〇地区、犬山市をよくするために私たちにできることを書き出していただいたものです。これも、先ほどの青色、黄色と同様に地図に貼って情報共有、意見交換をして、グループ内での議論をまとめていただきました。最後に、まちづくり川柳という形でその思いをまとめていただいて、グループで出た意見をそれぞれグループごとに発表していただいております。資料3の表紙以降のページは、グループごとに取りまとめたもので、開催日順に並んでおります。11月3日に開催した城東地区は、資料の事前送付に間に合わなかったもので、本日の追加資料として配付させていただいております。川柳は書いていただいた内容をそのまま、発表内容は要約しています。付箋は原文のまま記載しています。重複するもの、似た内容のものもありますが、タウンミーティングの冒頭で「皆さんの意見を審議会にお伝えさせていただきます」という説明をして、意見をいただきましたので、できるだけ生の意見をそのままに、まとめさせていただいております。今日でなくても結構ですので、今後のご議論の参考に一度目を通していただければ幸いです。

資料4～7は、事前に送付させていただきました、「はじめにお読みください」に内容を記載させていただいておりますので、説明は割愛させていただきます。

今日、追加でお配りした資料8は、タウンミーティングで、「私のまちづくりアイデア」として市長に提案いただいたものをジャンル分けして、一覧表にしていま

	<p>す。当日は、これらの提案に対して、市長がそれぞれのグループごとに自分でまとめて、コメントをいただいています。</p> <p>資料9は、今日欠席されている奥村委員から、資料を見たご意見をいただきましたので、お手元にお配りさせていただきました。</p> <p>資料の間違いがございましたので、一番最後に資料の正誤表が1枚ついております。申しわけございませんでした。</p> <p>今日は、資料1を見ていただいて、前回の議論を思い出しながら深掘りしていただいたり、資料2、資料3から9までを参考にさせていただいて、前回の意見に追加するような形でご意見をいただけたらと考えております。また、資料には載っていないけれども、やっぱりこういう視点もあったほうが良いのではないかというご意見も大歓迎です。</p> <p>説明は以上になります。よろしく申し上げます。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今回は、テキストマイニングも使ったりして、非常におもしろい、中学生の意見も出てまいりました。読み込むのが楽しいというか、辛辣な意見もあつたりしますが、皆さんそれぞれのテキストマイニングを味わっていただけたらと思います。すみません、これは私ごとです。</p> <p>皆さん、どうでしょうか。内容について、ご質問とかいかがでしょうか。確認したいことでも結構です。</p>
各委員	(質問等なし)
鈴木会長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、これからグループワークを進めていきますが、進め方について事務局から皆様に提案させていただきます。</p>
事務局(高橋)	<p>本日のグループワークにつきましては、いろいろな分野の方にご参加いただいておりますので、少しでも多くの方と意見を交わしていただきたいということで、今回、少しメンバーの変更をさせていただきます。今後も、折を見てメンバーを代えさせていただきます。</p> <p>グループワーク中の発言につきましては、前回同様に、最後の発表に使えるようにホワイトボードに筆記させていただきます。</p> <p>グループワーク終了後、再びこちらへ戻っていただき、副会長からグループワークで出た意見等の全体共有をしていただき、終了させていただきたいと思っております。</p> <p>グループワークの時間ですけれども、会長、何時までにしまししょうか。</p>
鈴木会長	<p>始めるのが少し早かったので、20時30分ぐらいまでグループワークをしていただいて、35分にはこの場所に戻って、それぞれの会場のお話のポイントなどを紹介いただくということで。</p>
事務局(高橋)	<p>わかりました。</p> <p>それでは皆様、ネームプレートと資料を持って移動をお願いいたします。</p>

#### 【Aグループ】

事務局(高橋)	<p>前回に引き続き、ざっくばらんな意見交換をお願いできればと思っております。</p> <p>今日は、まちづくり宣言のレベルで、「こんなまちになるといいな」、「こういうことが必要だな」というご意見をご自由にいただければと思っております。</p> <p>ちなみに、まちづくり宣言、うちは基本目標10個ありますが、数は決まっていな</p>
---------	---

	いので、近隣だと江南市で5つ、各務原市が9つ、小牧市は3つです。
森好委員	3つ。犬山は多いですね。
事務局(高橋)	比較的多い、全部網羅している感じです。表現の仕方ですので、参考にさせていただければと思います。 では、松浦副会長、よろしくお願いします。
松浦副会長	よろしくお願ひいたします。 女性が多いですね。そういうことを言うのはもう駄目かもしれないですが、あつと思ひました。 進めていく立場の人間としては、意見が出なくて時間が長く感じるこゝが一番避けたいので、積極的にお話ししていただければと思います。誰かの話に乗ったたり、そこから流れていったり、そういった時間の使い方も当然ありだと思ひています。テーマを絞り込む気はありません。 大変膨大な資料で、多過ぎてどうしようというのが私の印象ですが、その中で自分が気になったとか目にとまったものを中心にご意見をいただければと思ひています。 資料1が今まで出たものですね。
事務局(高橋)	そうです。資料1は、前回は絞ったものになります。資料2は第2回の意見や、タウンミーティングで出た意見、アンケートで出た意見が入っています。 資料の1の内容とかぶる部分はありましたが、かぶらないように作ったもの、あくまで資料1が前回のもので、資料2はその補足のよゝな形の資料だと思ひていただければと思います。
松浦副会長	資料1は前回のもの。グループが2つあったので、半分は聞いていないわけですね。
事務局(高橋)	そうです。
松浦副会長	ですから、なじみのある部分もあると思ひますし、資料2もそれに近いものがあると思ひますが、中学生とか子どもさんの意見はおもしろい。またその辺も触れていきたいと思ひますが、まず、資料1、2。今まで自分たちが話したことの振り返りのこゝがあると思ひますけれど、何か話したいこゝはありますか。
間中委員	よろしいですか。
松浦副会長	ありがとうございます。
間中委員	前回いろいろ考えるこゝがあつて、もう1回資料を見直して考えてきました。どうしたらいいのかなというこゝを、資料を踏まえてまとめてきました。 前のグループでは、子育て世代の数がすごく減っているという問題があつて、子育て世代に魅力を感じられないのではないか。適切な住宅が十分に供給されていないとか、安全安心な道路空間になっていないという部分がある。冷静に考えて、前、鈴木委員が言っていた、一気に子育て世代が減っている。 私は中学校1年生の子どもがいます。城東中学校の1年生は5クラスありますが、城東中学校はほとんど城東小学校から来ています。私の子どもは北小ですけど、城東小学校区はかなり減っています。この理由はもう明らかで、もえぎヶ丘と四季の丘という新興住宅地ができたのがその時期。幼稚園も、お姉ちゃんの代は同世代の子がすごく増えていた。それで、1年生、一番下の代が一気に減っているイメージがあつて、これがかなり影響している部分もあるのではないかと思ひました。ですので、これを今後継続していくこゝは多分かなり難しい。四季の丘、もえぎヶ丘は子どもが一気にいなくなる状態で、多分これは進んでいくこゝが現

	<p>状としてあるなということ、実体験、経験からすごく感じています。</p> <p>そういう中で、犬山市としてどうしていくのが一番いいのか。基本方針、こういう全体的なものは、利便性が求められることは絶対だと思いますが、それと並行して、犬山市の希少価値をどう上げていくのか、という観点がすごく大事だと思っています。どんどん便利になって、そういうものができたらありがたいのですが、そうすると、他の市町村と全く一緒になるなどはすごく思っています。</p> <p>転出と転入を見ましたが、名古屋や遠くからは同じぐらいですけど、近隣は少し転出のほうが上回っている。これは利便性、各務原にもイオン、公園もありますし、利便性では敵わないぐらいのものが近隣にあるということは思います。しかし、それと同じことをやるのか、ということを考えていけないのではないかと思えます。</p> <p>これからどんどん平板化していくと思います。いろんな都市が便利になっていて、同じような感じでいいのか。城下町も新しいお店がどんどんできていて、それはすごくうれしいと思う部分もありますが、プチ京都、プチ軽井沢ではないですが、果たしてそういうふうになったときに人が来てくれるのか。</p> <p>私、下呂温泉の話の前にしました。下呂温泉にすごく似ています。その中で、下呂へ行きやすくなってしまったら、観光の人たちも下呂へ行ってしまわないか。そういう中で、これから若い人たちに注目してもらったり、犬山から出ていっても戻ってきてもらうというときに思うことは、どう世界に発信していくかではないかと。世界から注目されるぐらいの、少し突出しているような、希少性を上げていくようなまち。そうすると、もし若い人たちが不便さを感じて出ていってしまっても、それに興味を持った人たちがやってくる。そのほうが、大事ではないか。今いる人たちはどんどん減っていくので、新しく人を呼んだり、注目されることを世界にどう発信していくかという世界視線にしていくことは、日本自体も人口が減っていく中で大事な視点ではないかと思っています。</p> <p>犬山はすごくいいところがたくさんある。この前、悪いところばかり言ってしまいましたが、すごくいいところがあるなど、帰ってから思いました。</p> <p>例えば、すぐそこの歩道橋、線路が3本重なっています。あそこは、子どもが大好きです。うちの娘は、あそこで2時間とか。線路も多くてすごく危ないですけど、小学校の行き帰りに、うちの子は、楽しく線路を見ている。電車が迫ってくる感じが大好きらしくて、あそこでずっと見ている子もいます。</p>
松浦副会長	<p>聞いていて、そのとおりだなとまず思ったことが、子育て世代が減っている。私の職業は不動産屋です。住宅団地ができて一斉に入居して、入ったときが一緒ですから、一斉に年をとっていきます。子どもが学校に上がるということが一番統計で出やすいですが、そのとおりです。だけど、人間は1年に1歳ずつ年をとっていくことは平等です。お年寄りの場合は20年たつといなくなっている可能性も高いですけど、これは避けられない。このエリアの中であまり偏りが出るのはよろしくないから、次の方法としては、引っ越していったら新しい人が来るとか。私は、高齢者は駅のそばのほうが絶対便利だと思います。もっと言うと、名古屋だと敬老パスとかいろんなものがあるのかな。便利なところがいいから。ある程度の年齢になったら、小ぢんまりとしたマンションでもいい。空いたところに子育て世代の人たちがそこで育てる。固定してしまうよりそういう回り方も考えないといけないのかもしれないと思います。</p>
間中委員	<p>年齢を重ねたら移動して、その住んでいたところに次。</p>

松浦副会長	次に若い方が。 もちろん、移動する先がないと移動できないから、まちの中でそういうものの提供が必要だと思いますが、そういうことも一つの考え方なのかなと思いました。 移住ではないけれど、人をこのエリアに来てもらおうと思っても、大体どこも同じことを考えてやっていますよね。
間中委員	そうですね。
松浦副会長	特に広くくりで、例えば東京から見たら尾張は似たようなカラーでしょうから、ここの中で隣の市町と競争していかなければならない部分もあるけれど、「尾張はいいところだよ」と、もう少し広範囲的にこのエリアの価値を高める。その上で犬山。 個性を出そうと思ったら、自然とか歴史、歴史では食べていけないけれど、文化が一番個性が出るのかなと。
間中委員	歩道橋もですが、桃太郎神社のあゆまつり、リトルワールドや明治村とかの自然もありますし、入鹿池、ピオトープもあります。城下町だけではなくて、その掛け算をする。逆に、お城なんてどこにでもあるし、自然もどこでもある。
松浦副会長	ただ、尾張地区でちょっとした丘陵地があるのは、犬山、小牧、春日井、瀬戸まで入るかな。扶桑から江南、一宮は真っ平。これは間違いなく自然の個性だと思います。
間中委員	そうですね。
松浦副会長	それと、おもしろいのはさっきの電車の話。犬山線と小牧線と広見線かな、3つ。あれはおもしろい。人が住んでくれるかは分からないけれど、それも個性だと思います。 今日あたり、自衛隊の飛行機がすごく飛んでいます。各務原に航空自衛隊があって、犬山の上を通過して下りていきます。私、飛行機が好きですから、飛行機が間近に見える城下町。それは駄目かもしれませんが、切り口によって、みんな個性です。 だから、もう一遍見直してみると、何かそこに、よそにないものがあるかも。
森好委員	観光の目玉スポットというよりも、コアな、そういう「電車が3車線じゃないか」、「城下町から戦闘機が見えるよ」という、100人いたら100人が飛びつかないかもしれないけれど、コアな情報が市民から発信できたり。世界に発信というとSNSですよ。
間中委員	世界から注目されていたら、絶対日本の周りからも注目されると思う。視点をそちらへ持っていくと、自然に近隣からも。それこそ若い人たちからも注目されるというところもある。 すみません、考えてきたことを。
松浦副会長	どうぞ。
間中委員	これからSDGsは大事という話を前回もしました。人権やサステナビリティ、循環型みたいところは確実に数字で出していく必要があるなという事は思います。世界の視点で見ると、日本のそういうところがなかなか注目されていないというときに、SDGsをしっかりとやっている、プラス日本の古き良きふるさとを注目してもらうには、SDGsで勝負していくという視点は絶対に大事だと思っています。それを達成できていないのに、お城とかも何もないと思います。どんなに特化していても、そこがちゃんとできていないと。
松浦副会長	企業なんか分かっているから、生き残れないから、SDGsにとっても一生懸命で

	すよね。
間中委員	市町村としてどう取り組んでいるかは、数字で、専門家でも何でもないので偉そうに言うのですが、それがどれだけ大変か分かりませんが、そこはこれからの世の中ですごく大事ではないか、というところまで今日お伝えできるとうれしい。データとかいろいろ、自分なりには見て考えたところです。
松浦副会長	田村委員、何かありますか。
田村委員	<p>この前、名古屋の円頓寺商店街で古本のイベントがあったので行きました。あそこは商店街としてはすごくいい感じだなと思いました。少し歩いたら名駅があるとかいうアクセスの良さではかないませんが、あそこは見た感じ、店を全部新しくしているとか、いわゆるインスタ映えみたいな若い人向けの店ばかり集めているというわけではないですが、人がいっぱいいます。普段もたまに朝市などをやっているみたいですが、いろんな世代の人が来ているということで、若い人だけをターゲットにしているわけではない。その古本のイベントは、いろんな人が自分の持っている本を持ち寄って、フリーマーケットみたいな感じになっていましたが、大学生ぐらいの人が店を出していたり、結構若い人がいっぱいいて、それにいろんな世代の人、上から下まで、家族連れで来ていたり、私は友達と一緒に行きましたが、すごくにぎわっていました。</p> <p>犬山でも時々はやっていると思いますが、定期的にこういうイベントができればいいなと思っています。城下町でなくてもいい。場所はあると思います。知らないだけで、多分犬山にもすごいいろんな人がいると思います。いろんな特技、文化的なこと、歌を歌ったりとか、それこそものすごいお宝を持っている人がいるかもしれない。そういう文化的なイベントをできたらいいなと思っています。数か月に1回城下町へ遊びに行く観光客だけでなく、2か月に1回とか月に1回そういうイベントに何回も、行くたびに新鮮で楽しいと思ってもらえるようなイベントができれば楽しそうだなと思っています。</p> <p>円頓寺商店街は見た目、すごく新しいという感じじゃないですけど、それがにぎわっています。昔ながらに、そこまで手を加えずにやっているというところが新鮮でいいなと思っています。</p> <p>そこと犬山が何か比較ができるとしたら、犬山はあそこよりも自然がすぐ近くにあるので、文化的なことプラス自然を取り込んで、犬山ならではの、のことができたらいいいのかなということ、最近出かけたり、この資料を読んだりして思いました。</p>
松浦副会長	古本というツールが人をつないでくれているということだね。
田村委員	はい。
松浦副会長	その古本に代わるツールは自然なのかもしれない。そういう気持ちで見ると、幾つか出てくるかもしれない。さっきの電車でも、撮り鉄さんが来るかもしれない。飛行機マニアが来るかもしれない。 すごくメジャーではないけれども、人を集めるツールを探す。
田村委員	今は発信も簡単で、意外とあっさり、すごくはまる人が見つかる可能性も高いので、ピンポイントでいける可能性があると思います。
松浦副会長	<p>直接関係ないかもしれませんが、マニアの集まりってあります。知る人ぞ知る、その趣味の人たちの聖地みたいなものがあります。</p> <p>スズキにハヤブサという1300ccのオートバイがありますが、鳥取に隼という駅があるそうです。あるオートバイ雑誌が「8月8日は隼駅に集合しましょう」と発信したら、最初20～30台、10年以上経って今は300台。無人駅だから、まちを挙げて</p>

	<p>大歓迎して、前でカフェをやったり。それが経営として成り立つかどうかは分かりませんが、そういったものもあります。映画のロケ地なんかでも。</p> <p>何がどうなるか分からないかもしれません。</p>
間中委員	桜の時期とか、撮り鉄さんいっぱいいます。
松浦副会長	総合計画からは少しと思いますが、そういう気持ちで掘り起こそうという。鈴木先生、どうですか。
鈴木(温)委員	<p>間中さんのおっしゃっていたことと結構同じようなことを考えていたのと、最後、逆のことを考えたので少しお話ししたいと思います。</p> <p>まず、同じようなことを考えたというのは、前回のまとめのところで書かれていますが、私自身も、課題とかネガティブなところを中心に話してしまったのですが、最後の資料、中学生のテキストマイニングのデータがすごく興味深くて、おもしろい。見てみると、好きなどころを非常にたくさん出していて、犬山城なんかもすごくたくさん出てきたりするし、城下町、リトルワールドもいっぱい出てきて、中学生って、そういうところにすごく感性を持っているのだなと、すごく感心しました。逆に、我々がそういうところを前回全然書いていなくて。間中委員がおっしゃったように、今回、特にいいところを中心に探していく、出していくということをやったほうがいいのではないかなと改めて思いました。私は外の人間なので、地元のいいところはやはり住んでいる人が詳しいと思いますので、どんどん出していただければいいと思います。</p> <p>そのときに、先ほどおっしゃっていましたが、やはり中学生が歴史、文化にすごく関心を持っている、いいと思っているのだなと思っています。以前に作られたまちづくり宣言を見ると、そういうところが少し弱い気がします。ですので、今回はあえて、犬山の魅力というものそういうところがかなり大きいと思いますので、歴史、文化みたいなどころをもう少し掘り下げて、宣言の中にもぜひ入れてもらいたいなと思った次第です。</p> <p>そういう意味では、ほかにはない魅力を作るということは私も大賛成です。今の時代は、インターネット等情報ツールがいっぱいありますので、そういういいものはすぐ拡散されます。私が最近見つけたYouTubeの動画、日本人が作っているのですが、海外の人がすごくたくさんコメントを書いている、英語ばかりです。何かというと、宮大工さんが作っている動画で、継手一釘を使わないで木をつなげる技術、あれを作業している動画を出しています。大阪城の大手門かな、もともとその継手が使われていて、それを宮大工さんが再現しています。ものすごく複雑だけれど、きれいに繋がります。よくこんなこと考えたなという、また、その作る技術もすばらしい。それがバズっていて、外国でものすごい人が見ていて、それに対して感心してコメントを書いている。もともと日本にはそういうのがいっぱいあるけれど、気づいていないということが多い。それが、今そういう情報ツールがあることによって、いいものはすぐ発見されて拡散される。犬山城もあります。犬山にそういったいいものが必ず埋まっていると思うので、そういうものをしっかりと再発見して行って、それをまた外に出すことによって魅力ってどんどん上がっていくと思います。そういうものを見つける努力が必要だなと思いました。</p> <p>それと、意見が少し違うかなと、私の意見ですけれども、思ったのは、SDGsのことです。SDGsは確かに今、全国的、全世界的にやられています。企業もそういうふうにする話になっているし、SDGsに則っていないと、銀行からお金をなかなか借りにくくなったりして、投資ができなくなったりするということもある</p>

	<p>そうです。学校でもすごく熱心に教えられている。</p> <p>逆に私はそれに違和感を感じています。つまり、同じ基準で統一的にやると、逆に個性を失う。</p>
間中委員	そうですね。
鈴木(温)委員	<p>書いてあることは分かります。みんないいことが書いてあるけれど、私自身はものすごく違和感を感じています。要は、同じ基準で全部こういうふうに行動しようとなってしまう。</p> <p>そこには世界の思惑があると思います。ただ、その世界の思惑も、その体制が変わるとがらっと変わったりするので、それに完全に合わせてしまうと、今までの良さがなくなったりするというのも怖いので、個人的には、無視するわけにはいかなと思いますけれど、お付き合い程度でやっていけばいいかなという。</p>
間中委員	<p>その意見も、一応自分なりに調べてというところですよ。</p> <p>でも、機械的に基準を合わせるではないけれど、そこがイメージぐらいなのかなという。</p>
鈴木(温)委員	大学の評価も、そういうものがありますが、教育評価とかそういう評価ばかりですけど、そういうのに力を使い過ぎると、本来やるべき研究だったり調査が逆にだんだんおろそかになったりするので。
松浦副会長	SDG s の考え方ってどこが発信元でしたっけ。
鈴木(温)委員	国連でしょうね。
松浦副会長	<p>私も、先生のおっしゃったのに少し近い感じを持っています。</p> <p>20年、15年ぐらい前かな、ISO って盛んに言われました。いろんなところで盛んにやっていました。その専門の担当がいて、データ集めで大変だったけれど、今は誰も言わなくなってしまった。少し似たにおいがしないこともない。SDG s のほうがもっと個人に近い感じはするのですが。</p>
鈴木(温)委員	ですので、それが結局変わってしまったりなくなってしまうたら、「あれは何だったの」という。
松浦副会長	結構なお金を使って、みんな取ったと思います。
鈴木(温)委員	無視はできないので、お付き合いはしていく必要はあるかもしれないけれど、一方で、逆に本来やるべきいいところをどんどん伸ばしていく。そこを重視すべき。
間中委員	しかし、無視はできない。
鈴木(温)委員	無視はできないと思います。
間中委員	遅れてしまいそうな感じも。そう言っている間にどんどん周りが。
松浦副会長	反対と言う勇氣はない。
鈴木(温)委員	あえて反対して、ものすごく損なことになったりするとあれなので。
松浦副会長	SDG s だって、私が知っているだけで、もう3年ぐらい前からやっていたような気がします。
鈴木(温)委員	ものすごく政治的な意図があるのでしょうかね。
間中委員	見せかけだけにならないように、というイメージではいます。見せかけだけやっていると、「何かやっています」と言っても、多分そういうことは分かる時代かなと思うので、そこはそこで割り切って。でも、きちんと突出する部分は突出していく。
鈴木(温)委員	<p>本来やるべきことをやるというか、自分たちにとってプラスになることをどんどんやっていくということは重要だと思います。</p> <p>多分、それをやっていけば、どこかに点数をつければいいですね。</p>

森好委員	SDG sの波に乗かって、利用して、ではないですけど。
間中委員	そうですね。利用する感じ。
鈴木(温)委員	逆に、それに合わせて引っ張られると、本末転倒かなと思います。
森好委員	真っすぐになってしまったら、希少価値というものが消えてしまう。そこを伸ばしていくと、何か一つついてくるぐらいの。
鈴木(温)委員	なので、凸凹していてもいいですね。
森好委員	いいと思います。それが特徴になってくるので。
松浦副会長	都会なんかと比べたら、もともとこのエリアで暮らしているということはそういうベースがあるような気がします。
鈴木(温)委員	良さを見失わない程度に。
間中委員	そうですね。そこは突出する部分で、弊害にならないのがいいなど。それが原因で、せっかく突出できる部分ができないというのは
鈴木(温)委員	項目がないところは、項目がないでいいのではないですか。それが個性ですよ。
森好委員	東京と犬山は違う。全部100点になってしまったら、全部一緒になってしまう。
松浦副会長	<p>また私が話しますけれど、大体共通しているのは、やはりこの地域のオリジナルのものでいいですね。強み。自然、文化、歴史。それにもう1点、それを担ってきた人が入ってくるのでしょけれど。そういう意味で、自分のまちのこととか自分のことをもっと知ることが大事だと思っています。大体人間というのは、自分のことがよく分からない。</p> <p>というのは、先日、松本城へ行きました。例のオートバイで、1人で思いついて行ってきました。行きましたら、70ぐらいの方でボランティアガイドのおばちゃんがみえて、「お1人からでもご案内します」と書いてありました。1人だとなかなか頼めないですよ。まして無料。そうやって一言書いてあると、とっても優しい気持ちになります。コロナの関係で名簿を書きました。住所、電話、名前。私、愛知県と書きませんでした。松本にいる人なら、お城同士で、犬山と書けば分かるだろうと。犬山と書いたら、やはり「犬山ですか。先日行きました」という話で。それで向こうも一生懸命ガイドしてくれるし、こっちもそれを聞いて返す言葉があると、話はどんどん盛り上がっていく。結局松本、特に今回お城の話ばかり、松本城はこうでという、うちの犬山城とは大分違いますねという話分かる。成り立ちやお城のコンセプトとか、自分のことを知っている、比較ができる。私たちは犬山のお城を見てきているから、形もこんなものだと思っているけれど、よそのお城を見てみると形が違ったりいろいろ。だから、いろんな話ができる。そうすると、向こうの人も喜ぶ。一方通行で聞いているだけだと、なかなか心が近づかないし、盛り上がらない。ですから、やっぱり一歩外へ出たり外の人にお会いすると、自分のことを知らないことは残念、もっと言うと恥ずかしい。逆にそんなことも知らないのかわる言われる可能性も。</p> <p>ですから、本当にいろんなものが出てきましたけれど、もう一度、足元のものを知ってみるということとはとても大事だと思いました。</p>
鈴木(温)委員	松浦委員のおっしゃったことは、すごくよく分かります。私、カナダへ1年間行っていたことがあって。
松浦副会長	松本とは大分違いますね。
鈴木(温)委員	そのときに、逆に日本のことをよく考えるようになりました。やはり外からもいろんなことを聞かれますし。外へ行ったことによって外から日本のことが見えるようになり、より日本のことを考えました。

	だから同じかなと。外へ出ると、自分たちのことが。
松浦副会長	それは分かります。 私も随分前、大人になってから、ルクセンブルクでホームステイをしたことがあります。向こうは大陸ですから、動いています。イタリア人がドイツにいたり、ほかの国へ。先々代とかひいおじいさんの代にこちらへ来たという話はたくさんあります。家族をととても大事にしている、家族の話をされる時に、「お前のところは」と言われて、「うーん」って話です。おじいさんのことを詳しく調べたことなかったなって。先生がおっしゃったのは、ヨーロッパの人たちは、ヨーロッパからあっちへ渡っている。それぐらい人が動いているので、自分のルーツが分からなくなる、アイデンティティそのものが消えてしまうから、本当に大事にしているような気がします。
間中委員	自分たちのまちを知る機会って逆になかなか。 市民大学があって、私も行きたい気持ちがあっても、そのハードルがなかなか高い。誰も知らない中で受けるってすごく勇気が必要だと思います私は歴史が大好きで、本当は歴史を勉強したい、古墳も行きたいのですが、そういうコミュニティ、誰も知らない中へ入ることはすごく勇気が必要。 例えばママたちのコミュニティで知りたい、若者のコミュニティでそういうものを横つなぎでできるようなものとか、何ていうか、自分たちのまちを知る機会って本当にまだまだ開けていないなど。 ノルウェーの子どもたち、高校生がすごく熱く議論している授業があるという記事を読んで、自分たちのまちを決める選挙ですら議論するのもなかなかないなど。私は「子どもに選挙へ行きなさい」と言えますが、どういう基準で人を選んでいいのか全然教えられない状況だなということは、この前の選挙でも感じました。自分も、「きちんと考えて選んだのか」と言われたら、自分のまちのことなのという。多分自分のまちのことをもっと知ったら、どういうお金が流れていて、それが分かれば、この人はこういう人なんだということが分かって、選挙がより身近になるのではないかなと。ノルウェーの高校生は白熱するそうです。大人ですら白熱しないというところがすごくあるなとも思うので、もっと自分のまちのことを知る機会を、本当にしつこいくらいやっていってもいいのではないかな。そういうことをしている市町村というのは多分注目されるし、若者も、自分たちの意見が反映されるかもしれないと思ったら、この市町村はすごく魅力的だなと感じるのではないかなと。 ですので、もっとこういう場に若者、高校生とかが来てもいいのではないかなと思ったりもします。もちろん年代は絶対に多様であることが大事。
松浦副会長	多様でないという意味がない。同じ考え方の人が5人いても、「そうだ。」と言っているだけ。 悪く言うわけではありませんが、お年寄りがモーニング、同じ人が毎日来て同じ話を、同じ新聞を読んでいる。悪くはないけれど、そういう中からは何か生まれにくい。
間中委員	私、理学療法士としてデイサービスで働いているので。子どももいて、やっぱりその感じが分かります。 例えば、歴史や文化が好きな子ども、好きな大人もいる。一つの目的があって、それに集まるコミュニティがあると、本当にしつこいくらいにやっていい。
松浦副会長	それは、田村委員がおっしゃった古本というツールが、年代を超えて結び付けて

	いますね。
田村委員	<p>地元のこことって、きっと小中学校のちょっとした社会科の授業ぐらいで終わってしまう。職業体験みたいなことを、たしか中学のときにやりましたが、それぐらいであくまで授業でやるという感じ。それから高校へ上がって、大人になると、やっぱり自分で調べないと、という。</p> <p>先ほどの選挙でも、自分の支持したい人の地元や、自分の地域からどういう人が出ていて、この政党はこういうことをやっていると、というマッチングできますと、ツイッター等で結構広まっていたが、「どれだけ意識の高い人が、自分でどれだけできるか」みたいな感じになっていると思います。そうではなくて、やはりいろんな、意識高い低い関係なく、全ての人が自分の持っている権利は使ってもいいということだし、自分は社会の一部で、自分の1票や自分の一言で変えていけるということを、特に私よりももっと低い世代に伝えていけたらいいなと思います。</p> <p>先ほどのアンケート結果も、確かに悪いことばかりではないなと思います。地元の中学生に聞いて、みんながみんな、「地元のいいところはどこですか」と聞いて、「イオンが大きい」と言われるよりは、「犬山城がある」って悪くないのかもしれない。だから、悪いことばかりではないと思いました。</p>
鈴木(温)委員	<p>地元のことを知るといことというので、最近おもしろいことがありました。</p> <p>私も小学生と幼稚園の子どもがいますが、小学校の子どもが学校の行事で劇みたいなことをやりました。普通の劇ではなくて、最初に地元のいろいろな、例えば消防署や教会等に子どもたちが分かれて行く。それで、どういう仕事をしているのか、消防士の生活はどんな感じか、その人たちが何を考えているのかというヒアリングにまず行く。そして、その職業の劇をする。消防士の劇、うちの子どもは教会へ行ったらしくて教会の劇をやったらしいです。平日だったので、私自身は見られませんでした。そういう話を聞いて、なるほどと思いました。そうやって地元のことを子どもたちによく理解させているんだなと。最近始めた行事らしいです。去年ぐらいからの新しい行事だそうで、そういうやり方もあるのかと思って話を聞きました。</p>
森好委員	<p>生きた学びですね。「教会ってこういうことするよ」と写真で見たりするだけでなく、実際にその場へ行行って、空気感だったりとか。</p>
鈴木(温)委員	<p>実際体験することはいいと思います。もちろん、書籍で調べたり、インターネットでも調べるけれど、生の声を聞いてということは大いかなと思います。</p>
森好委員	<p>職業体験などができますね。どこへ行かれましたか。</p>
田村委員	<p>たしか私はホテルに希望して行ったと思います。市内のいろんな施設に行っていました。結構楽しかったなということは何となく覚えています。それが1個だけだったので、学校の授業もいろいろあって大変ですけど、できれば何か所もできたらいいなと思っています。もしかしたら、それで誰かの人生が変わることだってあると思います。</p>
森好委員	<p>犬山市ですけど、私の頃には職業体験ありませんでした。</p>
松浦副会長	<p>時代とともに教育のありようとかも変わるということですね。</p>
森好委員	<p>でも、そういうことが、特徴を知る、愛着を持つきっかけになる。</p> <p>子どもが出ていくという話もありましたけれど、若者が流出していくということについても、流出して、先ほどのそれこそカナダから日本、犬山を見たときに、改めて犬山の良さが見えたりすると思います。ですから、前回の会議後、にこっとの中でいろいろ話もして、「1回出ていってもいいのではないか」。「出ていって、</p>

	<p>改めて外から見てみて、戻ってきてくれればいいよね」という話をしていました。</p> <p>ですから、戻ってくるための魅力というものを、出ていくまでの小中高ぐらいまでの間に形成されるということが。</p>
松浦副会長	それはとても共感します。
間中委員	<p>外へ出て、外から見て、「犬山っていいところだよ」と他の人から言われたり。それはやはりきちんと突出しているようにすると、興味も持てる。</p> <p>これは出ていった人もですが、外の人も同じかなと思います。</p>
森好委員	外に出てみることによって、視線を変えて。
間中委員	魅力があれば戻ってくる。外に出たら、学んで帰ってきてくれる。犬山にずっといて分かることもあるかもしれないけれども、外に出てわかることも。それがミックスされるのが大事なかな。
松浦副会長	<p>私もそのとおりだと思っています。勉強したり、知識を得る方法はたくさんあります。だけど、それは、自分の中で完結してしまう。外へ出たり人としゃべって、人の言葉というのはもう1回耳から戻ってくるから、これは全然違います。勉強は、自分の言葉が音にはならない、心の中で終わってしまうけれど、現実的な音、振動として人の声で戻される言葉というものは、とても深く印象に残ると思います。</p> <p>そういった意味で、人に会うとか、出る。興味はあるけれども行けていないという話がありましたが、人をつなぐ魅力的なツールを見つけ出せば、その小さいハードルは越えていけるような気がします。</p> <p>もともと人間、初めての人に会うのはある意味案外怖いんです。それは間違いない。初対面とかいうのは。否定はしないほうが私はいいと思っています。人に会うということは、少なからず不安があります。だけど、それでしか得られない何か楽しみがある。さっき言ったように、人の言葉で褒めてもらえるなど。ですから、外へ出るということはとても大事です。</p> <p>もう一つ言うと、魅力的なツールと、人を引っ張り出すような人になれ。誘って、「行こうよ」という人も必要だと思います。今どき、そういうおせっかいな人は流行らないのかもしれませんが。昔だったら子育てのときに隣のおばちゃんが見てくれたとか、そういう手助けはすごい魅力になりますね。ですから、おせっかいという言葉は駄目だけれど、いい意味のそういう人になれ、です。</p> <p>どうしてでこんなことを思うかといいますと、これも私の実体験。商店街の慰安旅行、何となく想像がつくと思いますが、先日、6人しかいないですけれど行きました。一番上の方は83、それから77、76、73、71、私62。私だけ若い。お年寄りもいろいろなところへ行きたいけれど、先ほどの話と似ています、勉強したいけど、行きたいけれど、誰か引っ張ってくれる人がいないと行けない。年齢もあって、不安なわけです。今のご時世、70幾つの人たちが運転していくわけにはいかないから、誰か連れ出してきて、運転してくれたり、そういった人間が必要です。「好きなところ行ってきなさいよ」、「ゆっくり行っておいで」と言っても、やはり誰か引っ張るキーマンがいないと行けない。それを私が商店街の中で若いからやってみて思いました。家族で行くのはまた違って、30年、40年来付き合い合ってきた仲間と行くのはとても楽しいものです。行きたいけれど、引っ張ってくれる誰か、甘えられる誰か、そういった人間が必ず必要だと思いますので、地域の中にできれば自分がそんな、こちらの人とこちらの人をくっつけられるような人間になれるといいですけど。ツールって先ほどありましたが、ここまでくると、人間もツールの一つかもしれない。友達になれるようなタイプの人間はとても大事だなと思いました。お年</p>

	<p>寄り連れていくことは、結構我慢が必要です。たかだか6人7人でも、歩くスピードが違うから、列がどんどん長くなって、迷子になります。だけど「怒ってはいけない。今日はそういうつもりで来たんだ」って。そういうキーマンを作らないといけないのかな。そういう人づくりも大事だなと思いました。</p> <p>もう一つおもしろかったのは、今、SNSやらの時代ですから、お年寄りも、「じゃらん取ると安い」、「早割だとあれだ」、「ポイントが付くぞ」とか、知っているけれども、やり方は誰も知らない。どうせなら値打ちに行きたいとみんなと思っている、情報は知っているけれど、やり方は知らないから、そういうことをしてくれる人、そういった意味で。</p>
間中委員	<p>聞いていると、コミュニティが大事かなと。私たちも、にこっとでコミュニティですけど。コミュニティをどうオープンにしていけるのかということなのかな。</p>
松浦副会長	<p>いろんな人来てもらったほうがいいですから。</p>
間中委員	<p>そうですね。しかし、中が見えないと、最初の一步はすごく難しかったりするの。どんなことをやっていて、ということをオープンにできる。</p> <p>ドイツの話ですが、ドイツは部活動がないそうです。部活動がない代わりに、コミュニティがすごくあって、ドイツではお子さんたちが部活動のような形でいろんなコミュニティに属している。それは年配の人も、年齢関係なく。大抵の人が幾つも掛け持ちしたり、学校の時間も短くて、コミュニティの活動時間が長い。ドイツのやり方でも、どこにも属しない子がいたり、問題はあるみたいですけど。いっぱいコミュニティを作ることによってどこかに引っかかってもらって、ご年配で困った人でも、例えば同じ共通の趣味を持っていて、ちょっとした顔見知りになっている。</p> <p>私、理学療法士として、職業としては助けられなくても、本当は個人的にもっと関わりたいと思う人と職域を超えてどう関わるか。私の中では結構テーマだと思っています。そういう年齢関係なくできるコミュニティを、基本方針にそれが関係あるのか。</p>
松浦副会長	<p>それはとても当てはまると思います。コミュニティですね。</p>
間中委員	<p>そうなんです。</p> <p>オープンに。例えば1人でこちらに引っ越して来た人が、何に興味を持つかというところを、いっぱいフックというか。犬山はそれにはすごく適しているなと思っています。古墳とかお城とかもあれば、電車もある、名古屋も近いので、コミュニティの集まりの協働プラザはすごくこれから大事だろうなと。</p>
鈴木(温)委員	<p>課題の中で、今までお話を聞いていると、だんだん犬山でもコミュニティが希薄になってきている。人とのつながりというのが感じられなくなっているということが課題で結構出ていたので、多分これからそこはすごく重要だと思っています。そのときに、合わない人と無理に付き合う必要はないと思います。そういうことも社会の中ではもちろんありますが、コミュニティで新たに何か人のネットワークを作っていくときには、やっぱり共通の価値観だったり共通の趣味だったりがあることがきっかけになることがやはり一番広がりやすい。ネット等でもそうです。そういう人たちが集まってオフ会を開いたり。古墳でもいいと思います。まずは共通のものでつながるとのこと。</p> <p>あと、さっきおっしゃられた、1回外へ出た人はすごく宝だと思います。犬山だけでは得られないような経験を積んできているということで、その人たちが戻ってくるとすごく大きいと思います。その人たちが戻ってきて、外で鍛えてきた経験をぜひ犬山に活かしてほしい。そういう関係が。</p>

間中委員	本当にそうですね。カナダとかへ出たい。
鈴木(温)委員	カナダから戻ってきたときに、日本って何ていいところだろうと思いました。もちろん、カナダもすごく良かったのですが、自然もすごく良かったし、日本にはないいいところがたくさんありましたが、それでも戻ってきて、日本はいいところだなと思いました。
田村委員	子どもって、小さいときは学校と家が世界の全てみたいなの、それが多分お年寄りだと、家だけ、みたいな感じになってしまう。それだけが世界の全てだと思ってしまうので、あまり考えたくはないけれど、学校とか家とかでつらいことがあったときにどこにも行き場所がない。ネットだって別にいいと思う。プラス、リアルで人と関わりが持てれば、つらいときに逃げ込める場所があったらいいなと思います。学校へ行くのがしんどかったら、「この施設、ここへ来なよ」とかいう場所があったらいいと思うし、お母さんが1人で育てて、本当にしんどいときにちょっと駆け込める場所があったらいいなと思います。いろんな世代の人にとってのサードプレイスみたいなところがあったらいいのになと思います。
森好委員	そこがごちゃ混ぜの世代だったり。おもしろいですね。
田村委員	1人で寂しかったご老人が、誰の子か分からないけれど、いつも来る子どものお世話を、そういうものがあってもいいのかな。
松浦副会長	お年寄りはやっぱり活躍させたい。 今、犬山市の65歳以上の高齢者は30%近い。だから10人に3人。高齢者は時間があるという言い方もあると思います。もうそんなに縛られて生きていないから、時間の自由があるということは、とても大きな財産になると思います。自分が思いさえすれば、自由に使える時間を持っている人はものすごいポテンシャルになると思います。その人たちをどう引っ張り出して、違う世代の人たちと出会う場を作るかということを考えるのだから。本当に自由なわけです。心が自由というのかな。それはものすごく大きな財産だと思いますから、ぜひ使わせていただきたい。
鈴木(温)委員	先ほどの外へ出た人は宝で、高齢者も宝だという。高齢者は、今までいろんな経験をしてくれている。それこそ大企業の幹部クラスになっていた人もいるし、商社等で世界中を飛び回ってきた人だっているかもしれないし、いろんな映像を作っていた人もいるかもしれない。いろんな人たちがいて、経験があるので、そこが宝だと思います。 まちづくりに関わっていいこうという人も、他の自治体でも高齢者が結構多い。例えば、私、瀬戸にも関わっていますが、不便な団地の中を住民が自分たちでバスを走らせている。住民がボランティアで運転手をしている。それは大体リタイアされた高齢者が運転してくれる。ボランティアですけど、市から少し謝金が出て、住民のために活躍されている人がいっぱいいます。
森好委員	いろんなところで聞きます。コミュニティのバスをもう少しこまで走らせてとか、小さいバスでこまで入ってきてくれとか。
鈴木(温)委員	民間の会社としては、そこは採算が取れないというようなところで走らせない。やってくれないから、自分たちで。
間中委員	そういうバスに子どもたちが乗れたりしたら、高齢者と子どもたちの知る機会も。
鈴木(温)委員	そうですね。子どももたくさん乗っています。 その地区はお祭りなんかやり始めました。20年ぐらいずっとやっていなかったみたいですが、年に1回お祭りを復活して、子どもたちもいっぱい来ます。コ

	<p>ロナでここ2年でできていないですけど。</p> <p>それも、きっかけは話し合いで、「何をしましょうか」という会があって、「バスを走らせましょう」「お祭りやりましょう」といろいろアイデアが出てきました。そういう思いがある人はいっぱいいると思うので、そういう状況を作ってあげると動き出す。</p>
間中委員	<p>今、実際に介護が必要になった人でも、博学の人、いろいろ詳しくったり、海外を回ってきた経験がある人とか、「もっと話聞かせて」と思う人がいっぱいいます。そういう人たちって、介護が必要になると、「それは申し訳ない」ではないけれど、そこを受け入れる土壌みたいのところ、多様性について考える。これは介護が必要とか必要ではないとか年齢ではなくて。ママもです。子どもがいろいろいまいが、小学生であろうが、いろんな年代の人たちが活躍できるというか、自分がやりたいこと、「やってもいいのではないか」と思えるような土壌づくりのようなところ、私自身で模索しているところではあるのですが、コミュニティの中で。そういう場づくりにすごく、それは全部つながる部分ではないかなと思ったりもするので、いいふうに基本方針に組み込んで、そこで少しでも引かかってくれると。</p> <p>それこそ貧困の問題、SDGsの問題とも絶対絡んでくるとってはいます。人権の問題とか。貧困の人って、例えばシングルマザーだけで大丈夫でも、シングルマザーになって病気になって、本当にいろいろ重なって行って苦しい状態になると思います。そのときに声を上げることは本当に大変だと思うので、そこで少しでもコミュニティでつながりがあれば、何かに引かかってくれていればなという思いもあったりします。</p> <p>年配の人の孤独死みたいな問題もあると思います。孤独死という言い方がどうかはあれですが、一人で暮らしている人がいて、どう関わっていいのかが本当に難しい。関わるのが悪いことみたいに思っている人もすごくいるなど。それは貧困のシングルマザーも同じだと思いますけれど、それを市が助けるというよりは、コミュニティで市につなげてあげるような。言えないぐらいの人もいると思うので。</p>
森好委員	気づいてあげられるような。
間中委員	気づいて、本当にその手前で訴えられるような、気づいてあげられる場づくりにもつながるなというのは、すごく思っているところです。
森好委員	おせっかいな人が増えるといいな。
間中委員	言葉を選んでいましたけれど、私はいいのではないかと。
松浦副会長	まとめていこうとすると、コミュニティがしっかりできれば、人が会う機会が。会えばいろんな意見が出て、アイデアが出て、お祭りが復活したとか。行政的な文章にしようとする。
間中委員	あわせて、利便性とかハード面が絶対大事だと思います。それから、子どもたちの好きな場所がお城ということもありますけれど、やはりコンビニが近くに欲しいという意見もあるので。
松浦副会長	中学生の意見は非常に現実的だから、それを「我慢して」という話ではなくて、それも一定のレベルで底上げしつつですね。
間中委員	<p>そのせめぎ合いなのかな。どんどん利便性を良くしていくと一緒にはなってしまう。それでも住みたいまちとなったら、ソフト面で、やっぱり人がいい、人とつながれる、そういうところがすごく大きいのではないかと思っています。</p> <p>逆に、人がいたらそこに住みたい、会いたい人がいるみたいな、人は大事だと思います。人と、もちろん、同じものに興味を持っているということもあれですけど</p>

	<p>ども、そういう人を犬山で。</p> <p>そうしたら、少し交通の便が悪くても。</p>
松浦副会長	<p>交通の便の悪さを補うのは人です。便利なところだったら、いいわけです。便利でお金さえある人だったら。不便を補えるのは人かもしれないし、自然とか環境とかが癒してくれるかもしれない。</p> <p>時間になりました。</p>

【Bグループ】

事務局	<p>前日に引き続き、ざっくばらんな意見交換をお願いできればと思っております。</p> <p>今日は、まちづくり宣言ということで、「今後こうなるといいな」ということについて、少しテーマを絞ってご発言いただけたらと考えております。</p> <p>ちなみに、まちづくり宣言は10ありますが、基本目標は数が決まっているものではありません。ほかの市町ではもっと少ないところもあります。こちらから送付した資料を参考にしても結構ですし、それぞれのお立場から思っていることでも結構です。ご自由にご発言いただければと思います。</p> <p>それでは、ここからの進行は、副会長、よろしくお願いします。</p>
水内副会長	<p>お願いします。</p> <p>今日は欠席の委員の皆さんが多くて、Bグループはこの4名になります。やわらかく、それぞれ会話するような感じで意見を引き出せたらいいかなと思っていますので、忌憚のない意見をお聞かせください。</p> <p>資料が多くて、どこを見て話せばいいかなという人が多いかなと思いますが、今日は基本目標ということですので、いろんな観点から、皆さんのご専門もそうですし、普段生活されていて、気になるところ、「こういうまちだといいいな」ということをメインに話をさせていただくといいのかなと思っています。</p> <p>資料1と資料2を用意していただいて、資料1は、前回のAグループ、Bグループで集めたものを端的に整理していただいています。この中で話をさせていただいてもいいです。資料2でよりこちらで話をしたいなと思いますが、前回の審議会で意見があまり出なかったけれど、市民意識調査、若者アンケート、タウンミーティングの意見では見られるものということで、審議会であまりカバーできていないところがこの資料2にまとめられています。ここを少し見ていただいて、自分が関係するところということで話をさせていただくのが、まずは良いのかなと思っています。</p> <p>また、細かい資料でたくさん、タウンミーティング、アンケート結果もありますので、そういうところも参考していただく中で気づいた点、賛同できる点含めて話ができるかなと思いますが、本当にざっくばらんに、会話するような感じの意見交換をよろしくお願いします。</p> <p>目黒委員、いかがですか。感想か何か。</p>
目黒委員	<p>地区別タウンミーティングについて、「自らできるところ」に書いてあることが、「新しいことに取り組みたい」、「こういうことをやってみたい」というものが多いなと思ったので、そういうことを助けていけることがいいのかなと思いました。</p>
水内副会長	<p>新しく何かをやりたいと思っている人たちを応援したいということですね。</p> <p>それは必ずしも若い人だけではなくて、高齢者も現役世代も、いろんな世代の人がこんなことをやってみたいと思ったら、気軽に挑戦できる。それを応援できるまちであって欲しいということはそうですね。こんなにやりたいと思っている人がいるのだったら、それをきちんと応援してあげないと。いいですね。私もこんなにや</p>

	<p>りたいと思っている人がいるのだなど。</p> <p>岡村委員、いかがでしょうか。</p>
岡村委員	<p>今のことに関連して、市民で自ら、ここに書いてあることの中で、「コミュニティ」、「そういうつながりが欲しい」とか、いろいろなことが書いてあって、そういうところをととても大事にしたいなと思います。特に高齢者もこれから増えていきます。今でも、各地域で生きがいサロンなどやっていて、実際に認知が入った人が、そこへ通うことによって大分元気になった人も私は知っています。そういった形でやはり健康面でも。</p> <p>医療、病院といったハード面の充実はなかなか難しいと思いますけれども、様々な努力で健康も維持できたらいいなと思います。</p>
水内副会長	<p>今回、コロナ禍ということもありましたが、健康への意識などをコミュニティで支え合うことが大事だなと思いました。どうしても自宅療養になってしまうと大変です。安全を確保する中で、コミュニティが支え合うと、医療崩壊につながらない、ということもあるかもしれません。</p> <p>医療の話が出てきましたが、医療、健康などについて、こういうふうにするべき、感覚でも結構です、こんな視点が大事ではないかというご意見をお持ちの方いますか。資料2を見ると、医療体制が充実していると思う人は少ない。だけど、やっぱり健康への関心は非常に高い。健康を大事にしているという回答が、家庭の次に多い。健康に関心がある人が多いけれど、なかなか医療体制が充実していないと感じている。歩きたくなるまち、生活を支える施設が身近にあって自転車で暮らせるまちを目指すべきだと思う、ということは、日常の中にも健康的な生活のまちにするべきだという意見。このあたり、感覚でも結構ですけれども、どうですか。</p> <p>個人的な意見としては、医療は、生活の底をすごく支えているものだと思うので、やはり総合計画としては、全員が必要な医療をきちんと受けられること、先ほど言われたようなコミュニティでの見守りであるとか予防、医療と言わないかもしれないですけど、予防的なことを含めて支え合うという仕組みができる、ということは重要だなと思います。</p> <p>私の個人的なことですけど、認知症に関わる課題にデザインの方面から少しやっています。そこでは、認知症フレンドリーコミュニティという言葉が使われますが、認知症は今、65歳以上の高齢者の5人に1人が認知症になると言われている時代で、もう珍しくない。その中で、認知症の人が暮らしやすい地域環境、生活環境を作っていこうと。そのためには、医療だけ福祉だけが頑張ればいいというわけではなくて、やはりコミュニティの中で、認知症の人が暮らしやすい地域環境。そういうものは誰もがとても暮らしやすい、ということにもなるので、例えば今は企業や、いろんなサービス、行政の施設も含めて、認知症の人と一緒にあって、認知症の人が参加して、もっとこうなるといいという改善点を上げてもらって、それをみんなで改善していくという取組みに少し参加しています。</p> <p>そういうふうに認知症に限らず、地域の中で健康で暮らしやすい、病気になっても安心であるという地域を作っていくことは、誰にとっても安心なまちづくりにつながるので、必要ではないかなという気はします。</p> <p>いかがですかね。そこに限らず、もし今ので何かあれば。</p>
丹羽委員	<p>今の健康に対しては、私どもの事業、車関係ですけど、健康経営ということに非常に関心があります。高齢化に向かってそういった新しい事業が創出できないかということはずっとやっています。大分前からですけど、人が歩くことに対して、</p>

	<p>高齢者に医学的な見地からデータを取りながら、老いをなくすことにつながる研究をやっています。その一つとして、最初はあまりそういうことを気にせず世の中に出したのですが、a L Q (アルク) という製品を販売して、ふるさと納税にも出してもらっています。それを医学的な見地から、産学連携、特に欧州の大学と一緒にやりながら、そういったことが脳を刺激して老いを防ぐことを科学的に証明して、それが事業につながるのかとか。それから、人が歩行するときのデータを取りながら、その人の歩行が今、正常な状態にあるのかなのかということをやりながら、異常ならばこういった歩き方のほうが良いということもやりながら、順天堂大学だったかな、ともいろいろやっています。</p> <p>私が言いたいことは、自社のやっている内容の説明ではなくて、健康経営というものを一つの企業で考えたときに、何が社会に貢献できるか。そういった研究をしながら、何かを形にするということをしきりにどこの事業者もやっていると思います。そういう中で、私どもがやっていることは「歩く」ということに着目しながらやっている。それをある程度データや商品に変えて、企業として成立しないかというものの研究はしています。</p> <p>まちに置き換えると、健康なまちというと、私のイメージする内容は、各務原市は健康に関する施設、例えば河川敷にサイクリングコースや散歩コースがあったり、ゲートボールをやる施設があったり。土日はゲートボールをやっている高齢者がいっぱいいるんですけど、そういう施設があったり。各務原市にはスポーツ施設がすごくたくさんあります。それでまち全体、各務原市というものを下支えしているというか。結構自由に使わせてもらえます。ある程度予約すれば使えるというふうになっていて、そういったスポーツ施設が犬山市よりも多いです。私を知る限りでは、各務原市にはいっぱい施設があります。そういうところが犬山市は不足しているのではないかと。例えばグラウンドもあるのですが、各務原市はもっとあって、いろんな施設があります。特に河川敷なんかはパターゴルフ場もありますし、もう少し岐阜のほうへ行くと、人工芝を敷いたサッカーコート。それは県外、もしくは隣の市から予約が殺到しています。あとは、各務原市の体育館の中にはウェイトリフティングをするような施設も完備されていますし、登録すれば自由にできます。あとプールもあります。そういう意味で犬山をベンチマークとすると、各務原ってすごくあります。資料の中にありましたが、各務原市は公園も結構たくさんあって、要は、幼児から園児に上がって小学生の低学年まで遊べるような公園、遊具がいっぱいあります。そういうことを思うと、犬山市は、私の知る限りは、当社の従業員も犬山の人結構いますけれど、「小さな公園はいっぱいある」と言いますが、「子どもを遊ばせて楽しませるようなところがあまりない」と言います。野球をしたいとか何かしたいとなると、やっぱり隣の各務原市へ行ったりすると思う。それぞれの町内に公園は点在するのですが、そんなに大きくないと。散歩するぐらいで、スポーツをやるような公園ではないと。</p>
水内副会長	意外とそういうところが大事かもしれないということはあるですね。
丹羽委員	そうですね。私は住んでいる市が違うから、そういうことがよく分かるなという気はします。
水内副会長	<p>今のお話を聞いていると、各務原市は河川敷をうまく利用しているなという印象があります。サッカーコートを造ったり。</p> <p>犬山市も、土地利用がどうかは分かりませんが、同じ河川をどう管理していくか。今は水辺の親水空間のような、水辺を盛り上げようという流れもあると思</p>

	<p>うので、そこをどう犬山として戦略的にやっていくのか。方向性としてはそういう扱い、健康とかスポーツに関わるような場所を河川敷に用意したらどうかとかいう話は出てきそうな感じもするかなと思いました。</p> <p>データサイエンスもおもしろいですね。健康のデータを取っていく。</p>
丹羽委員	<p>そうですね。そういった事業というのは、世の中にないことをやっつけていかないと。要は、データを取りながら見える化していく、ということです。それで健康具合を測定できるようにしていくということが非常に大事だとは思いますが。</p>
水内副会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>いかがですか。ここからは、ほぼクロストークといたしますか、みんなでぎゅっばらんに、気づいたことをしゃべれたらいいかなと思います。</p>
岡村委員	<p>さっきの公園ですけど、木曾川沿いを歩く人たちがいっぱいいて、いつも言われることは、「犬山の道はガタガタだけれども、扶桑に入るときれいになっている」と。私も実際にそうだなと思います。テニスコートもありますが、最近の災害、雨が降ると水没してしまって、また整備、というような感じになっているので、きちんと整備できていないなど。</p>
水内副会長	<p>少し手が回っていないかもしれない。</p>
岡村委員	<p>そうですね。あそこら辺をやっぱり扶桑町並みにというか、続いているので、見劣りしないような形でウォーキングコースとかいろいろなものの整備をやったら、もっといいのではないかと。</p>
丹羽委員	<p>各務原はちゃんとしたところにちゃんとしたテニスコートがあります。そこは近くにフットサルコートもあって、休みの日は人がいっぱいです。</p>
水内副会長	<p>少し話題がずれますけれど、河川の空間を整えるということは、災害への備えみたいな点も恐らく重要ですね。公共的なところからしっかりやるとか。昨年、一昨年豪雨がありました。そういうことへの備えや、地震も、東海の震災も来ると言われて、そこへの備えも。これは10年の計画ですから、そういうところもどう考えていけばいいかなと思ったりもしますが。</p> <p>目黒さん、いかがですか。</p>
目黒委員	<p>先ほどの河川整備については、中学生の頃、木曾川の河川敷にグランドみたいなところがあって、そこで中学生が野球の大会をやるということがあったのですが、草刈りなどが行き届いてなくて、「やってもらわないといけない」と、その大会をしてくださっている大人が話していました。それを今、思い出して、整備が行き届いていなかったなということのを思いました。</p> <p>それから、ずっと犬山に住んでいますが、先日、栗栖のほうへ初めて行って見て、キャンプ場があって結構人がにぎわってしまいました。桃太郎公園とか。そういうものがあるのに、そこへ行くまでの道も結構狭かったり、整備されていないなど。その道の脇に公園みたいなところもあったと思うのですが、そういうところもきれいにできたらいいのかなと思いました。</p>
水内副会長	<p>そうですね。栗栖は本当に詰まっているので、どこかで道が寸断されたりすると孤立しかねない場所だったりします。そう思うと、インフラをいかにやっていくかということは、防災・減災でも必要です。</p> <p>例えば外国人をどういうふうに応接できるのかという観点を少し話してみてもいいのかなと思います。例えば企業の中で、労働者含めて外国人は増えていますか。暮らしていると、そういう感覚はありますか。</p>
丹羽委員	<p>私どもはコロナの関係で、外国人、技能実習生は逆に入ってこられないから、そ</p>

	<p>んなに増えてはいないです。そんなに増えてはなく、逆に、期間が来ると帰らなければいけないということがあります。2、3日前、日経新聞にそれが変わると載っていました。今、制限がないのが2業種、建設と船舶関係しかないかな。それ以外の業種は全て、技能実習生として雇用できるのが最長5年です。それが、法律が変わると載っていました。人数的に増えているかといったら、やはりコロナになってから入ってこられないということがあって、逆に帰ってしまった。契約していますが、契約満期前に帰るといふか、帰れなくなってしまうから、帰しているということがあります。</p>
水内副会長	<p>愛知県は外国人の数が多いですね。</p>
丹羽委員	<p>そうですね。やはり製造業なので多いです。愛知県は本当に製造業が多い。このあたりも製造業が多いですけど、雇用されている人、企業はたくさんあります。</p>
水内副会長	<p>生活されていて、どうですか外国人。今は観光が少なくなっているの、特殊な時期かと思います。それがまた開くとおそらく外国人がたくさん犬山に観光でもみえると思いますし、生活していても外国人を見る機会が増えたなという印象がありますか。</p>
目黒委員	<p>私は、観光客とかはいないと思いますが、住んでいる人が増えているのかなと思っています。家の近くのアパートに東南アジア系の方が住んでいるのをよく見たり、そうでなくても道を歩いていたり電車に乗っているのをよく見たり。あと、駅前通りに、コンビニじゃないですけど、スーパーみたいなものができていて、そういうお店ができるくらい外国人が住んでいるのかなと思って。駅から家への通り道にありますが、通りがかりにちらっと見るとお客さんがいらっしやるので、外国人が増えているのかなという事は感じます。</p>
岡村委員	<p>私も、外国人が増えているなど。中国系だったりベトナムの人が多いいと思います。市役所の市民課に結構な数の人がいろんな手続にいらっしやっているのを見る。それから、犬山口に割とアパートがありますが、しばらく前は低所得の高齢者が住んでいたりして、私も生保の人を訪ねて行ったりしたことがありますが、今はそこがほとんど外国人に代わって、ごみの集積のところが大変なことになっていて。</p>
水内副会長	<p>ルールが分かりづらいのでしょうね。 どうしていくといいのでしょうか。おそらく増える傾向は変わらないと思いますが。</p>
岡村委員	<p>いろんなコンビニでそういう外国の人が働いている。</p>
水内副会長	<p>私は犬山に住んでいないですけど、日常生活の中でも、すれ違う人が多かったり。外国人も暮らしやすい犬山であればいいかなと個人的には思いますが、コミュニティになかなか入りづらいですかね。外国人は外国人でそういうスーパーができるぐらいのコミュニティがあるけれど、それと日本人のコミュニティと接続されていないのかもしれない。ごみ出しの問題とか本当に顕著ですけど、日本だと当たり前のことだけれど、外国人にとっては少しハードルがあったり分かりづらかったり。今回のコロナのワクチンもそうですけれど、どうしても後手後手になってしまうということもありますよね。 私も留学していたので、一時期、外国人で過ごした数年間がありました。そうすると、「やはり外国人は不便だな」と思います。言葉もなかなか通じないし、文化も違うし。</p>
岡村委員	<p>どちらにいらしたのですか。</p>

水内副会長	<p>私はイギリスにいました。イギリスのロンドンでしたが、ロンドンは外国人の2世3世の人がいたり、同じ外国人としてすごい温かく迎え入れてくれたので、すごい助けられましたけれど、そこはどうなのでしょう。今でもそのまちへの愛着はあります。</p> <p>よく「シビックプライド」という言葉が使われたりしますが、例えば外国人で働きに来ていて、移住したりして来ていて、そのまちにあまり良くされないと、そのまちのことを好きになれないとか、犬山の人たちが冷たくしていると、そこが自分のまちではないと思ってしまうと、まちの活力になかなかつながらないと思います。そういう意味で、この言葉はヨーロッパでできました。ヨーロッパの都市間競争の中で、EUで、今は離れていますけれども、人が自由に行き来するようになると、都市が優秀な人を奪い合う。その中で、いかに好きになってもらうか。外国人も含めて好きになってもらうかということが発端の一つになって、「シビックプライド」という言葉が生まれました。確かに、「自分のまちではない」という外国人が増えれば増えるほど、まちの活力が失われていくという感じがします。そこもどうしたらいいのかなど。</p>
岡村委員	<p>市も、ごみ袋に何か国語かの言語で書いて。ということもあります。あと、いろいろな人たちのグループなどでのコミュニティがあるみたいなので、そういったところと町内で話をしたり、ということが必要になってくると思います。体の具合が悪くなったときに相談する、通訳を兼ねている人がいて、そういった人たちといろいろつながったりするといいのかなと思います。</p>
水内副会長	<p>そういう人たちは、医療へのアクセスも確かに大変ですね。 そのほかいかがですか。お気づきの点など含めて。</p>
丹羽委員	<p>資料を見させてもらって、私の感じる場所は、「犬山市総合計画審議会での意見整理」と「18歳以上の調査アンケートの結果まとめ」は、皆さんがご意見を言われた内容とアンケートが類似しているとか、傾向が似ているなどはすごく感じました。</p> <p>私は前回力説させてもらいましたが、「犬山には衣食住がない」と。本当になく市だなどと思っています。残念なのは、国宝はあるけれど、城下町周辺はそれなりに整備されて、それなりに良くなっています。まちの景色も良くなって、電柱も地中に埋めてきれいになっているというイメージですけど、一步外れるとシャッター街があって、それが非常に悲しいなということと、前も言いましたけれども、今は犬山市って泊まる場所がない。昔はありましたが、もうない。今はミュージアムと、来年の春できるインディゴ、あの辺しかない。もう1つ、木曽川のすぐほとりにとても高級なところがありますけれど、そこはなかなか手が出ないから、本当に泊まる場所がない。そうすると、観光された人がどこに泊まるか。観光都市といえども泊まる場所がない。まずそういうことを強く思いますという話を、この前しました。</p> <p>私が言いたかったことは、本当に犬山市自身が循環しているというふうにしていかないと、人もなかなか集まってこないし、そこに企業もできない。市街化調整区域ということもあるかもしれないけれど、ここに人が住もうという気にならない。それを循環型に変えるためにはどうしたらいいかということだと思います。そういう中で私が考えていることは、犬山市は住んでいるエリアは結構狭くて、もう少し東へ行くと畑や田んぼが多い。そうすると、農業が盛んとは言いませんが、農業をしている人が結構います。高齢化になって、今は実態がどうなっているのか分かり</p>

	<p>ませんけれど、農業と農業をしたものが犬山市できちんと加工されることに意味がある。加工されて、それが犬山市の産物になって犬山市で販売されていると。こういうつながりがないと、そこにお金も落ちない、人も来ない、人も住まないという現象につながっているということではないのかと思っています。都市計画法とかいろいろあって、土地の利用に関しては制限があるかもしれないけれど、やはり農業、商業、工業、販売関係、サービス業が全部一連でつながっているということが大事。そういう都市にしていけないと、定住しない、ここに愛着はあるけれども先は分からないという発言が非常に多かったのですけれど、「何もない」、「食べる場所もない」という意見につながっているのではないかなと思います。</p> <p>比較してはいけないと思うのですが、各務原市にはにんじん通りがあって、ニンジンをすごく作っています。ニンジンの産物は、といっても、加工したものはありません。ニンジンを買っています。本当に道端でお金を置いていけば1袋買える、そういう置き場がいっぱいあります。それから、各務原キムチ。韓流ブームに乗って各務原キムチというものができて、各務原市的那加というところに公園がありますが、昔流行った冬ソナストリートが観光名所になっています。冬になるとライトアップされて、イチョウ並木になっています。今、イチョウが見応えある黄色に色づいて、皆さん結構見に来ます。少しのことですけれど、そういうところがあるかなと思います。</p> <p>私が言いたかったのは、土地利用については都市計画法でいろいろ制限されているけれど、市の中で農業、商業、工業、サービス業がつながっていないといけない。そうすると、そこでお金が循環していくという仕組みができるだろうと。お金が循環されれば市が豊かになり、そこに住みたいという人、住宅事情の問題や土地の利用問題はあろうと思うけれど、が生まれてくる。需要が生まれてくるといい。人が来れば食も豊かになるし、衣類を買いたい人があって、人が住めればニーズも出てくるだろうし。今はニーズがない。どちらかというとな古屋や岐阜へ行けば買えると思う。いけないことは、一戸建てのスーパーが点々とあるだけで。商業施設、いわゆるモールが全くない。各務原市は、そこにイオンモールができました。もう少し奥へ行くと、那加町のもう少し奥へ行くとまたモールがあって、いろんな店があります。食もあり、雑貨も売っている、ペットショップもあるというモールがあります。みんなそこへ行きます。そこでお金を落としていきます。分かりませんが、犬山はそういうものがない、モールが全くない。あるのは、そのヨシヅヤさんぐらいかな。</p>
水内副会長	<p>今の話で少し戻りますけれど、農業と商業と工業とサービスがつながっていて、農産物が地元で加工されるということが大事だということは、すごく同意するところです。そこがないとやはりうまく回っていかないでしょう。それは切り分けて考えずに、いかに循環されるかということを考えるということは重要です。</p> <p>確か地域農産物のブランドが犬山にあるは・・・</p>
事務局(井出)	<p>今のお話で少し話をさせていただいていいですか。</p> <p>犬山は観光で名を売っているけれど、特産品がないという点は我々も同感です。例えば、にぎわっているけれど、売れている団子が、もしかして犬山市外で作ってきたものを持ってきて、あんこを載せて売って、ということでは、犬山に全然お金が落ちていないのではないかなということは感じています。</p> <p>これから育てていってもらいたいと思うことは、ココトモファームさんみたいな形。犬山はあまり畑がなく、田んぼです。犬山の米を犬山で育てて、それを犬山</p>

	<p>で加工して、人が集まる場所で市外の人に売るという形で、城下町にもお店が幾つかできています。今度、工場とお店ができると聞いています。</p> <p>そういった犬山の農業と、加工して、それを売ることが一貫してできるようなお店がどんどん育っていくといいなと我々も考えていて、何かできたらいいなと思っています。</p>
水内副会長	<p>そうですね。ココトモファームさんは、障害者支援というか就労支援。</p>
事務局(井出)	<p>そうです。農福連携という形で、農業だけではなくて福祉、障害者の雇用というところもやっています。そういった形で地域の課題と密接にやっていただけたところなのかなと期待しています。</p>
水内副会長	<p>そうですね。一つのモデルケース的な位置づけになるかもしれないですね。</p>
丹羽委員	<p>そこの社長が言っているのは、第6次産業。農業1次、工業・商業2次、いわゆる福祉を掛け合わせると6次。6次産業と言っています。</p> <p>私、商工会議所の代表で来ていますけれど、2年前に初めて商工会議所で名刺交換しました。そこから、何店舗できたか分からないぐらい作っています。結局、犬山市というところが受け入れやすい。犬山市に何店舗もできています。なぜかと言うと、「農地は宅地にはできない」そういう制限がかかっている。農地を農地で利用することはできるから、そこの社長さんはそういうことを考えて、今井で作ったお米でバームクーヘンを。普通は小麦粉を使うのでグルテンだけれど、お米、米粉で作るとグルテンフリーになって、食にも非常にいいものだし。健康にもいいという宣伝でやっています。何店舗も急激に拡大しているって、そういう意味です。土地も借りやすいという。</p>
水内副会長	<p>先ほどの新しい挑戦を応援したいというのは、まさにそういうことがあるということがもう少し知れると、そういう人のスタートアップを応援できる。おもしろいプレーヤーが犬山の中で増えていくといいですね。</p> <p>ほか、いかがですか。</p> <p>アンケートを見ていると、「公共交通が弱いのではないか」、「便が少ない」という意見が立つなとしました。予算などいろんなことがあるのかもしれないけれど、向こう10年の総合計画を考えたときに、高齢化が進んでくる、より暮らしやすいまち、ということ考えると、公共交通はどうしても維持もしくは改善をしていく必要があると思うのですが、暮らされていて、そのあたり感じることはありますか。</p>
目黒委員	<p>私、ふだんは乗りませんが、大学が1日休校の日があって乗ってみて、楽田と善師野のほうに行ってみました。本当は犬山市内全部行きたかったけれど、特に東のほうは行きづらくて、いいふうに時間が組めなかったので少ししか行けませんでした。そういう東のほうこそ、多分インフラの整備、交通網の整備ができていないのに、コミュニティバスの接続とか本数とかが少ないのではないかということはずごく感じて。栗栖とか入鹿池のほうと本当は折り返して行きたかったのですが、一回行くと、1時間ぐらい待たないと戻ってこられないみたいな感じだったので諦めました。人が少ないから本数も減っているのかもしれないけれど、そういうところこそニーズが多いのではないかな、必要としている人が多いのではないかなということを感じました。</p>
水内副会長	<p>そうですね。</p> <p>岡村委員。</p>
岡村委員	<p>5台から8台体制へと増やしてはいますけれども、私も、もっともっと充実していかないといけないと思っています。特に私が聞いているのは、つつじが丘という</p>

	<p>ところ、もう小牧に近いところですけど、そこに乗り入れてくれていないから、90代の女性が、足が悪くても免許を返納できないという話があります。小牧に近いところだから小牧のバスが乗り入れてくれてもいいし、何でもいいけれど、という要望があります。</p>
水内副会長	<p>今、免許返納を進めないといけないということになっていて、進めても暮らせるということは、やっぱり条件ですね。返したくても返せないという。それで事故が起きたりすると、誰もが不幸になってしまう。安全を守るためにも、公共交通が支えるということは大事ですよ。</p> <p>移動の手段がもう少しあってもいいのかなという気もします。タクシー含めコミュニティ。10年経つとどのぐらいシステムが進むか分かりませんが、もう少しネットワーク化された、細かな公共交通機関をきめ細やかに配置するというのも、もしかしたら可能かもしれないですね。そうすると、そういうところを積極的に求めていくという姿もあるかもしれない。自由に移動できるまち。</p> <p>どうですか。</p>
岡村委員	<p>公共交通に関しては、タクシーチケットもありますが、タクシーチケットをもらえる年齢が85歳です。この地域が結構そうなのですが、関東だと70歳、75歳以上はもらえる。助成している部分も基本料金だけです。先ほど言った東部の人を病院へ行こうと思うと2,000円、3,000円かかってしまう。その670円とか700円程度の負担だから、自己負担が結構大きい。24枚チケットがあつて、それだけなので、もっと使いやすいように、500円券や300円券というふうに、1回に何枚か使えるように変えたらどうかと思います。</p>
丹羽委員	<p>私から、違った角度で。</p> <p>気になるところは、この総合計画審議会、第6次、この先10年のどうありたいかというものを作る目的です。</p> <p>自分の企業に置き換えると、私どもも中長期を発表していますが、10年先のありたい姿を描かなければいけない。そうしたときに、まず何を考えるかという、10年先を描くために、基本としてペスト分析というものをよくやります。政治、経済、社会はどうなるかといったイメージを持つことが大事。特に我々は製造業なので一番大事なのは、技術がどうなっていくか、ということをやります。私ども自動車に身を置いています。新聞にばんばん出ていますけれど、自動車はどんどんEVになっていく。脱内燃機関ということが非常に進んでいて、本当に目の前まで来ているという状況です。考えなければいけないことは、10年後のイメージを持つことが大事だと思います。この中でキーワードに出てくるもの、SDGsという言葉が何回も出てきます。皆さんもそういうものを見て、そういうキーワードを書いていると思います。今から10年後、2030年ぐらいをイメージして作らないといけないというふうに見る。パリ協定やCOP26でいろいろ話がされていると思うのですが、世界全体がカーボンニュートラルに向かって進んでいく、この要素はファクターとして非常に大きい。こういった総合計画書にもそういったものを盛り込まないといけないとは思っているし、市そのものもあるけれども、個人もそうなっていかねばいけない。そういったことを意識したまちづくりが10年後は必要になってくる。前の菅首相が2030年に2013年度比CO2削減量を46%削減すると言っているから、特に我々の業界というのは加速度的にいろんなことが進んでいます。カーメーカーのトップメーカーさんから、「こういうことを具体的にやりなさい」ということが下りてきています。そういう面では、一般の人は、こういった文字は見られるけれど、具体</p>

	<p>的に何かというのはまだまだない。だけど、やはり10年後は必ずそういうときが来るわけで、都市のあり方もそれを入れ込んだものを作っていけないといけないのかなと思います。そういうことを考えた都市をつくっていけないといけないなと思います。今日もSDGsのバッジを付けていますけれど。</p>
水内副会長	<p>まさにそのとおりです。同意見です。</p> <p>カーボンニュートラル、ゼロエミッションに向かっていくということが世界の流れで、もう変わらないだろう。ここから加速度的になっていくときに、産業もそうですけれど、まち全体も。そういうまちが増えてくる中で、犬山はどうするのかということはあると思います。環境都市を目指すという姿勢は、競争力を保つ上でも重要です。</p>
丹羽委員	<p>水内副会長も言われていますけれども、やはり新しいことの取組みが必要だと思います。何か新しく取り組めるような市にしていかなければいけないと思います。我々企業にすれば、「やったことがないようなものにチャレンジしていくといった企業体であるべきだ」が、うちが考えている内容で、市も新しいものにチャレンジするようなまちづくりというイメージを持ってもらえると。カーボンニュートラル、2050年ゼロになるということとはとても無理とは思いますが、まだ先のように思いますが、10年なんてあっという間に来てしまうから、非常にレベルが高いことをやらないといけないなと思っています。</p> <p>そういう面でまた違う話をしますが、再生エネルギーという問題があって、今は石炭や火力を使って電気を起こして、その電気をみんな買っている。それが違うものに代わっていくなっていくから、一般の人はそういうことを意識したまちづくりをしないといけないのかなと思っています。</p> <p>近くに中部電力がありますけれど、多分いろいろ悩まれてやっていると思います。先ほども言いましたが、車は全部電気自動車になっていくわけですから、そういったまちづくりも必要かなと思います。</p>
水内副会長	<p>それはファクターとして非常に大きい。10年というスパンだと。あとはそういう競争が起きてくるだろうという予測ができるので。</p>
岡村委員	<p>再生可能エネルギーということだと、太陽光が個人宅でもついたりしています。あと、犬山は小水力発電できないかなと。いろいろ研究はされていて、主体をどういうふうにしていくといったことではあれですが、いろいろな事例を見ると、発電所を作るという取組み、市民の人と一緒にあって出資したりして、そういうことができればいいかなと思います。</p>
水内副会長	<p>小規模の、ローカルなグリーンエネルギーを作るということは、最近注目が集まっていたり、それこそ農業と関わりがありますけれど、バイオ燃料というものを地域の中で作って、地域の中で循環させるという取組みも見られます。エネルギーの問題は、本当に逼迫してしまうと市民生活も厳しくなってくるので、そこは確保した上で、いかにグリーンにシフトしていくか。そういうことはブランディングのようなことにもつながりそうですね。まちとしてきちんとそういうところに向かっていくというのは、恐らく評価が高い市になっていくんだらうと思います。</p> <p>いかがですか。</p>
目黒委員	<p>私も同意見です。犬山市って、伝統とか歴史とかそういうところを市民もそれ以外の人も魅力として感じていると思います。それももちろん一つの軸として、それだけではなくて、今、話があったようなSDGsなどの新しい価値観も。2つの軸で進めていくことがいいのではないかなということはずごく感じています。</p>

	<p>たくさん話が出たので、何について話せばいいか分からないですけど。</p> <p>大分話が戻ってしまいますが、農業と商工業とサービス業を分けずに、また、6次産業みたいな感じでやるという話がありました。アンケートでは、サービス業も結構人気ということがあったので、そういう面でもサービス業が犬山市でもできるといいのではないかなと思いましたが、生活の面、働くという面でも、そういう循環していけるようにすることがいいと思います。</p> <p>それから、ヨシヅヤぐらいしかお店がないという話があって、私も確かにそうだなと思いました。行ってみると、そのヨシヅヤでさえ寂しい感じだなと、先日、久しぶりに行って思いました。買い物をするとか、犬山市で、地元で働いている人が他の市と比べて少ないというお話もアンケートからあったと思いますが、犬山市は家があって住むだけ、みたいな感じになっているのかなとすごく思っています。</p> <p>中学校までだったら、学校が市内にあるのでそれでもやっていけるけれど、高校になると行動範囲が広がってどんどん外へ出ていくと思います。私自身、大学も名古屋市へ行っていて、友達と遊びに行くのも名古屋市なので、犬山市で完結するように、犬山市の中で循環するような政策がやはり大事なのかなと思いました。</p>
水内副会長	<p>そうですね。</p> <p>すごく個人的な意見ですが、イオンのような大きなショッピングモールを求める声が高いですけど、今、イオンが撤退している地域があります。イオンを作って周りが焼け野原になったときにイオンが撤退するということになる、その後が悲惨です。そこも何か考えなければいけないのだろうと個人的には思っています。小さな商店がたくさん元気になっているまちというのは、持続可能的ではないかなと思って。それこそおもしろい個人商店がたくさんあるまちは、個性的であり、にぎやかであり、犬山独自の店が増えると思います。イオンを否定はしませんが、他のまちと同じになってしまったり。そこが、イオンが見捨てたまちということになると大変なことになってしまうと思うと、一様に「大きな商業施設を誘致しましょう」ということが、10年という長いスパンで見ると、果たしていいのかどうかというの、少し二の足を踏むなど個人的はあります。判断が難しいところもあるかなと。</p>
丹羽委員	<p>そうですね。</p> <p>各務原市には大きなイオンもあります。モールもたくさんありますが、那加に浅野屋という昔ながらの八百屋があります。そこは、駐車場もないのにお客さんがたくさん来ます。どうして来るのかなと思ったら、おかみさんの人柄がいいということがあります。あと何かというと、自分のところで食品を加工して、自分のところで揚げたりなんかして店頭で温かいものを提供している。仕入れているわけではない。そういう企業努力があります。お客さんを呼ぶ何かがあります。多分、大量に仕入れるイオンなどとは違って捌ける量が決まっているから、若干高いですが、何かイオンにはできないようなことをあそこはやっているんだろうと思います。野菜以外に果物もいいものを仕入れて、高いですが、皆さん買われていく。何か特徴があります。その中でも生きられるということは、何か、多分そこには努力があるのだと思います。大概は大型店ができるとシャッター街になっていきますが、そこでも生き残れるという何かがあるのだろうと思います。企業努力で大事だなとすごく思います。</p>
水内副会長	<p>そうですね。そういう小さな中小商店を元気に応援できるまちは、私はすてきなと思います。</p>

岡村委員	<p>犬山でも、イオンができるか、という時期がありましたが、それが実らなかったときから、そんなに儲からないと踏まれたのかなと。</p> <p>農業でも、農協がありますが、実は犬山の農協は農業にあまり力を入れていない。</p>
丹羽委員	<p>犬山には農協がやる朝市とかないですか。</p>
岡村委員	<p>ありますが、毎日提供できるような感じではありません。週に1回でしたっけ。</p> <p>それから、農業の大きな失敗は、今井開拓パイロット。やったけれど、だめになってしまったみたいなことも経験している。</p>
水内副会長	<p>農業は、それこそ食に結びつくような、第6次産業に結びつくような農業のあり方にシフトしていくといったことも、犬山では特に大事かもしれないですね。</p>
丹羽委員	<p>どうですか。</p>
事務局(井出)	<p>犬山の農業は米ですので、あまり売りになっていないところがあります。その中で、米を使ってバームクーヘンをやっていると思いますが、野菜とかもできるといいなとは思っています。</p>
水内副会長	<p>犬山は、まち自体はそれこそ観光で名前が売れているまちだと思うので、そのこのブランドを背負いながら農産物を作ると、割と有利ではないかと思います。犬山の特殊な、そういうことが応援できるので、いいなあと思います。</p>
事務局(井出)	<p>以前からやっていますけれども、シルバートマト。少し高いですが、水内先生にデザインをお願いしてやっていますが、あれも一つの実験です。安さではなくて質のいいもの、高いけれども食べていただけるようなものを作って成功したいなという。</p>
水内副会長	<p>そうですね。それこそ、高齢者が働いてコミュニティを作って、という場所にもなっていますね。</p>
目黒委員	<p>畑はあまりないという話でしたが、田んぼがたくさんあるなら、それを生かしたことができたらいいなと思います。今、大学でNPOと協力したプロジェクトをやっていて、子どもたちに農業の体験をしてもらう。お米を植えるところから、育てて、刈って、脱穀もして、自分たちで食べるという、食育、教食ということをやっています。犬山でも、せっかく田んぼがたくさんあるのあればそういう体験、子どもたちに向けた教育も含めて、田んぼを活用できたらいいのではないかなと思います。それから、全国的にだと思いますが、農業を担っている人は年齢が上がっていると思います。でも、その一方で、若者も関心を持っているのではないかなと思うので、そういう人たちとのマッチングなどもできたらいいのかなと思います。</p>
水内副会長	<p>そうですね。若い人たちが関心を持っているけれども、儲からない、きつい、しんどいから、農業にいかない。でも、一部ですけれど、変わろうとしているところがあつたりするので、そういうところに犬山がうまく乗っかるという変ですけど、やりたいと思っている人を応援するという枠組みかもしれないですけど、応援して若い農業人が増えていくと、犬山の農業がおもしろいことになるかもしれない。</p>
丹羽委員	<p>そうですね。</p> <p>先ほどのココトモファームがなぜ成功しているかといったら、お米は、普通はお米でしか売らないという発想だったものをバームクーヘンにしたから事業が成り立っている。発想を変えて、お米をバームクーヘンにしますとなったからヒットしています。</p> <p>そういう中で、各務原市はイチゴ農園があつて、温室のイチゴ狩りができる場所があります。それもすごい大きなところ。イチゴは、イチゴを温室で育てると、</p>

	<p>イチゴ狩りもできます。イチゴの出荷もできます。傷が付いたイチゴは加工すればジャムにもできます。大きなものはケーキに乗せたり、結構いい値段で卸せます。イチゴはいろいろ使い道があって、イチゴだけを売るのではなくて、イチゴが変化していくということが大事。中には、イチゴのお菓子を作ったりとか、イチゴ風味というものを使っていろいろ商売をやったりという人もいます。そういうものが結構あって、そうするとお金が循環していきだろろうと思います。ココトモファームは、そういう発想でやっているという点が非常にいいなと思います。目黒委員から、NPOの関係をやっているという話がありましたが、そういうふうではないかなと思って。</p> <p>大事なことは、地産で地消であるということ。地産で地消で終わるということは、循環しているということだと思います。そうすると、市自体が豊かになると思います。</p>
目黒委員	<p>NPOも他の市、犬山市ではないところでやっていますが、結構メディアにも注目していただいて発信してくださったり。それから、子ども向けということで、子どもが興味を持ってくれたら教育になるし、将来もしかしたら農業をしてくれるかもしれない。そういう面で、循環になるし、まちのPRにもなるのかなと。農業以外の面でも市を支えるものになるのかなと思います。</p>
水内副会長	<p>今のポイントになっているのが、ジャンルを横断していったり、観光と教育と農業と組み合わせたものであるとか、ココトモファームもそうですけれど、就労と農業、農産と、そういうふうにボーダーを越えていくことを応援するためには、何が必要なのでしょうか。アドバイザーみたいな人が必要になるのですかね。それとも、地域のそういう人たちをつなぐ役割の人たちが必要なのか。どうやってそういうことができるのかというのは気にはなります。おもしろいことを考えていたり、やりたいなと思っている人が犬山市の中にも、それがうまくマッチングされない。マッチングができたり、いろんな団体がそれぞれの力を掛け合わせることでできたりとか、そういうことも必要なのでしょうか。</p>
丹羽委員	<p>そうですね。商工会議所もマッチングをやっています。商工会議所に加盟している企業とのマッチングということで、紹介とかいろいろさせてもらっていますけれど、そこで何かコラボとかシナジーが出せないかということも紹介しながらやっています。</p>
水内副会長	<p>岡村委員は、NPOとか市民活動。市民団体の関係というのはどうですか。</p>
岡村委員	<p>協働プラザというところできて、若い人たちがサークルを作ったり、にこっとさん、女性の活躍の場も提供したり。</p> <p>私自身は猫の保護活動をしていますが、様々な人たちがいます。</p>
水内副会長	<p>個人的には、市民参加がもっと進むといいなと。この10年のベースですね。そういうことと、今話してきたような、産業とも無縁ではないけれど、そこはつながっているのだろろうと思います。市民の人たちのアイデアがまちを動かしていくことを支えるということはやはり大事だし、市民参加の声を上げにくい人たちの声をきちんと行政に届けることも重要ななと思います。</p> <p>そろそろ時間ですが、ここだけは言いたいなみたいなことありますか。</p> <p>さっき丹羽委員もおっしゃっていましたが、10年先を想像するってやっぱり難しいですね。</p>
丹羽委員	<p>10年のイメージを出そうと思ったら、先ほどのペスト分析、ポリティックス、エコノミー、ソーシャル、テクノロジーというところを見てどういう発想ができるか</p>

	<p>を連想しながら考えていかなければいけないのかなとは思いますが。</p> <p>でも、今、主になっているキーワードがあると思います。先ほども出た「健康」もそうだと思います。</p> <p>私、「SDG s」と言いましたが、その前までは「E S G」。意味が違いますが、E S Gって結構言われました。SDG sが前へ出てしまっていますが、そういったことがキーワードになるだろうと思うと、やはりここに住むわけですから、「安心安全」という言葉は絶対避けられないキーワードで、そこに向かっていかなければいけないかなとは思いますが。</p> <p>それがキーワードだと私は思います。</p>
水内副会長	<p>私が思ったことは、10年一昔ってものすごい昔ですね。10年前、2010年の頃には今の状態は考えられなかった。コロナ禍があるとは思わなかったし、これだけ環境意識が高まっているとも想像していなかったかもしれない。そうすると、細かな修正といますか、総合計画とはいえ細かに時期を見てアジャストしていく柔軟さが総合計画自体にもあっていいのではないかなと、いろいろ議論すればするほど思いました。</p> <p>時間になりました。今日は少人数でしたけれど、大事なポイントが出てきました。ありがとうございました。</p>

#### 【全体】

鈴木会長	<p>全部話すと時間がかかってしまうので、司会をやった副会長が話の中で非常にいいポイントだったということだけ紹介していただく形がいいと思います。</p> <p>事務局がきちんとまとめてくだされば会議録を読んだらほぼ分かりますので、そのようにしていただきたいと思います。皆様も、会議録を読んでいただくと、それぞれがどういう話をしたか、どんな論点があったか分かります。こんなにきれいに会議録を作っているところも珍しいので、そちらをご覧くださいと思います。</p> <p>よろしいですか。</p>
各委員	(意見なし)
	<p>本当にありがとうございました。</p> <p>それでは、話を全部紹介するのではなくて、副会長が話し合いの中で感じ取ったポイントを紹介していただくという形でいきたいと思います。</p> <p>最初に、水内副会長からよろしくお願いします。</p>
水内副会長	<p>全部紹介したいなという気持ちが強いのですが、3点ぐらいあるとすると、1つは、新しいことを始めたいと思っている人が、そういうことができるまちであって欲しい。それは若者もそうですし、年齢問わず。</p> <p>例えば農業、商業、工業、いろんなサービスが地産地消で、犬山の中でつながっているということが産業や生活を支える上では大事じゃないかなというポイントは、議論がかなり行われました。</p> <p>それから、地球環境への、エコロジーへのシフトが今進んでいるので、この10年を考えると、カーボンニュートラルに向かっていくようなまちづくり、施策が重要ではないか。</p> <p>そんなことをはじめとして、本当にいい議論ができたと思います。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>松浦副会長。</p>
松浦副会長	<p>まず、大変いい議論ができました。Aグループは女性が3人いました。私として</p>

	<p>は、こういう会議に女性が多いというのはとてもいいなと思いました。</p> <p>産業、買い物、交通といったものは人間が生きていく上で当然必要なことで、ここは遅れている部分がありますので、ここはしっかり手当てをして、なおかつ犬山の魅力を、という話でした。</p> <p>コミュニティの充実。平たい言葉で言うと、コミュニティって少し冷たく聞こえるかもしれないですけど、人と人をつなぐ場、という意味のコミュニティです。そこがしっかり充実してくれば、人は出てきて、出てくればしゃべる。しゃべるとアイデアが出る。アイデアが出れば行動に移るということで、人が出会う場をしっかりと作る。それをコミュニティと考えています。多様な人がいる集まりをコミュニティといいます。一定の年齢の人たちだけですと、老人クラブ、子ども会、女性会。そこはそれで大事ですけど、多様性に欠けますので、コミュニティをしっかり充実していく。</p> <p>犬山の魅力というものは、自然、環境、文化がありますけれど、そこに人、個性。その個性を魅力とくっつけたらいいと思います。一度外に出て、戻ってきた人もすごい個性です。リタイアした人は生きてきた経験値が個性ですから、そういった意味で、いろんな世代の人たちが入れるようなコミュニティができるといいと思います。</p> <p>そのためには、少しおせっかいなというか、引っ張ってくれる、そんなキーマン作りもとても大事だと思いますので、自然、環境、文化、そして人というのが大事というお話でした。</p> <p>ありがとうございました。</p>
鈴木会長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>今日のそれぞれのグループでどんな意見交換があって、どんな知恵が出てきたのか、そして基本目標に組み入れたらいいキーワードなり内容があったのかということ、議事録を楽しみながら、チェックしていただければと思います。</p> <p>本日、限られた時間の中でありがとうございました。</p> <p>あとは、事務局から委員の皆様にありましたら、お願いします。</p>

#### (4) その他

事務局(高橋)	<p>ありがとうございました。</p> <p>事務局から、その他として2点ほど連絡させていただきます。</p> <p>次回の総合計画審議会ですけれど、年が明けて、1月27日木曜日の午後7時からを予定しております。同じような形でやる予定ですが、新型コロナウイルスの状況を見て、開催方法等また検討させていただくこともあるかと思っておりますので、よろしくお願いたします。</p> <p>(2点目「年末調整について」略)</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございました。</p>

#### (5) 閉会

事務局(井出)	<p>本日の会議はこれで閉会とさせていただきます。</p> <p>皆様ありがとうございました。おつかれさまでした。</p>
---------	---